

平成 25 年度日本自然災害学会オープンフォーラム・学術講演会開催報告

平成 25 年度日本自然災害学会オープンフォーラムが 2013 年 9 月 23 日（月）に、日本自然災害学会第 32 回学術講演会が 9 月 24 日（火）、25 日（水）に北見工業大学を会場として開催されました。開催期間中は、北見工業大学の防災研究に携わる学生諸君による一般市民への防災・減災啓発を主眼とした防災展示が行われました。以下にその概要を記します。

1. オープンフォーラム「オホーツクの災害環境」

2013 年 9 月 23 日（月）14 時～17 時、北見工業大学 C122 講義室を会場に、一般市民を対象として「寒冷地の防災・減災－自然災害から人命、地域を守るために－」をメインテーマとした講演とパネルディスカッションを実施しました。

日本自然災害学会会長・中川一京都大学教授の開会挨拶に引き続き（写真-1）、北見工業大学教授高橋修平氏による「豪雪災害と地球気候変動」ならびに日本赤十字北海道看護大学教授尾山とし子氏による「寒冷地における避難の現状と課題」の 2 件の講演が行われました（写真-2、写真-3）。

10 分間の休息後、パネリストとして両氏に網走地方気象台技術課長岸隆幸氏および北見工業大学准教授伊藤陽司氏を加え、北見工業大学教授高橋清氏をコーディネーターとして①オホーツク



写真-1 中川学会長による挨拶



写真-2 高橋教授による講演



写真-3 尾山教授による講演



写真-4 コーディネーターとパネリスト

地域における災害特性、②寒冷地における防災・減災システムの課題、そして③寒冷地における防災・減災を進めていく上での対策案・災害研究が果たす役割の3つのテーマで一般参加者からのコメントも交えて約1時間20分間に亘り、活発なディスカッションが交わされました（写真-4）。

このオープンフォーラムへの参加者数は97名であり、一般市民の参加では北見市民のほか、オホツク管内の市町村からの参加もありました。このオープンフォーラムの様子はNHKや北海道新聞にも取り上げられ、また、地元北見の情報紙は2014年新年特集号で本オープンフォーラムを紹介しています。

2. 防災展示

2013年9月23日（月）～25日（水）の間、北見工業大学コミュニケーションアトリウムを会場に、一般市民への防災・減災啓発を主眼として①地震津波の再現、②地震時の建物挙動再現および③大雨時の地すべり再現を模型実験によって行いました（写真-5）。

上記のオープンフォーラム開催日には開会前の12時～13時45分および閉会後の17時10分～18時の間に繰り返し再現実験を行い、発生現象を解かりやすく説明するとともに自然災害への備えの重要性を訴えました。



写真-5 防災展示の様子

写真上左：津波再現の様子

写真上右：地震時の建物挙動再現の様子

写真下：大雨時の地すべり再現の様子

3. 第32回学術講演会

2013年9月24日（火）9時～17時40分および25日（水）9時～16時35分、北見工業大学A101講義室、A106講義室およびA107講義室を会場に、近年の多様な自然災害の調査・研究に携わっている第一線の研究者・技術者・学生111名が集い、自然科学から工学、そして社会科学にまで及ぶ広範な調査研究97件の発表があり、熱心な討議が行われました。

今回は東日本大震災特別セッションとして東北大名誉教授首藤伸夫氏による特別講演があり、多くの参加者が長年に亘ってわが国の津波研究を牽引してきた首藤先生の講演に熱心に耳を傾けていました（写真-5）。なお、特別講演資料が以下のURLにアップされています。

日本自然災害学会HP：<http://www.jsnds.org/contents/20130924/shuto.html>



写真-5 学術講演会の様子 写真左：開会式、写真右：学術講演会での特別講演

また、9月24日（火）18時から北見工業大学生協食堂において開催された懇親会では、オープンフォーラム開催に後援いただいた桜田北見市長を来賓に迎え（写真-6）、この中では、若手研究者を対象とした学術発表優秀賞の表彰も行なわれました（写真-7）。

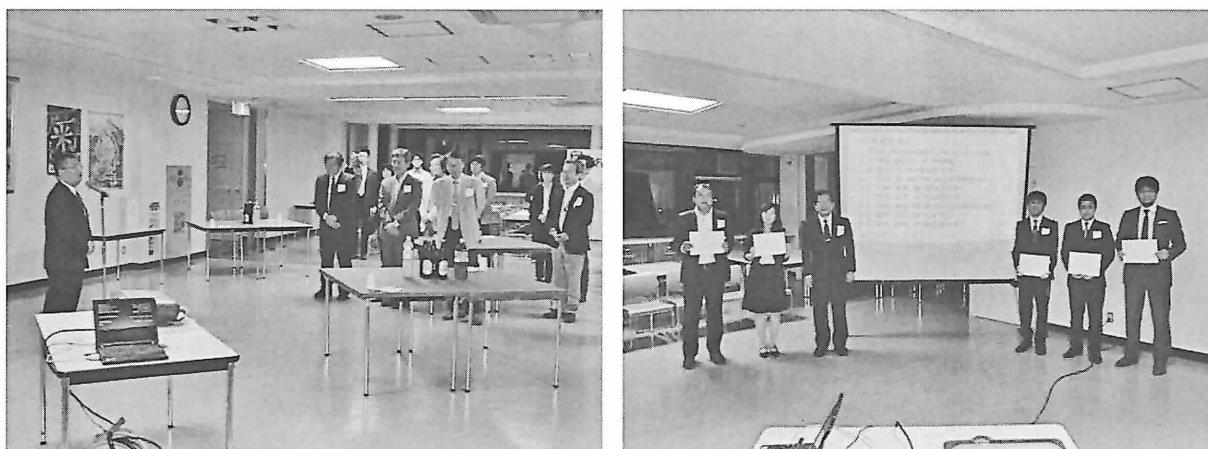


写真-6 桜田北見市長の来賓挨拶

写真-7 学術発表優秀賞の受賞者

最後に、平成25年日本自然災害学会オープンフォーラムならびに学術講演会の開催するにあたり、共催いただいた北見工業大学には会場利用に便宜をはかっていただきました。ここに御礼申し上げます。

早川 博（北見工業大学）